

6・1 海賊問題

6・1・1 海賊の発生状況

平成 26(2014)年に報告があった海賊事件は、245 件と前年より僅かに減少(前年比約 7.2%減)し、平成 20(2008)年以降では最低となった(【資料 6-1-1-1】)。

ソマリア海賊による事件が平成 24(2012)年以降から激減していることにより、全体的な発生件数も減少傾向にある。アフリカ海域における海賊事件発生件数は平成 25(2013)年に 79 件報告されていたが、平成 26(2014)年は 55 件(前年比約 30.4%)と、前年同様に減少が続いた。国際海事局(International Maritime Bureau)では、海賊発生件数の減少は、海陸における連合軍の活動や民間武装ガードの起用など有効な防衛手段による効果の表れとしている。

一方で、海賊発生件数は減少しているものの、依然として不審船情報が報告されていることなどから、IMB では、引き続き適切な海賊対策と、襲撃への警戒を実施する必要がある、と強調している。また、東南アジアにおいては、前年に引き続き増加傾向にあり、前年比約 10%増の 141 件となった。

世界全体で、海賊事件発生件数が減少している一方で、被害に遭った乗組員・乗客の数は大きく増加し、平成 26(2014)年は 479 名(前年比約 28%増)、人質に関しては 442 名(前年比約 45%増)となった。特に東南アジアで 277 人(前年比 183%増)と増加したのが顕著であった(【資料 6-1-1-2】)。

発生海域別にみると、全体では 1 位インドネシア 100 件、2 位マレーシア 24 件、3 位バングラディシュ 21 件とアジア地域での事件が顕著であった。また、ハイジャック件数も増加し(前年比約 75%増)、全体で 21 件報告されているうち、16 件が東南アジア及び南シナ海で発生し、他 5 件は西アフリカで発生した(【資料 6-1-1-3】参照)。海賊事件発生件数では、東南アジアでの事件が、昨年に続き増加傾向にある。

1. アフリカ地域

紅海を含むソマリア周辺海域における海賊事件は、11 件と前年同様に低いレベルであったことに加え、武装ガード乗船による対応等の適切な対処により、深刻な事態となる事件発生は防がれた。ギニア湾沿岸諸国全体の発生件数は、ナイジェリアが 18 件(前年比 42%減)と減少したことにより、全体でも前年に比べ 41 件(前年比 20%減)と減少した。

ソマリア海賊による事件発生件数は、各国政府による海賊対処活動やベスト・マネジメント・プラクティス(BMP)の徹底、民間武装ガードの採用等による各商船の海賊対策強化が継続されていることで、低いレベルにあるが、脅威は依然として大きく、海軍や各商船による警戒は不可欠である。

2. 東南アジア地域

東南アジアにおける海賊事件は平成 22(2010)年以降増加傾向にある。シンガポール海峡では、8 件と昨年に比べ大きな増減はないが、マレーシアが 24 件(前年比 167%増)と大きく増加した。全体としては前年の 128 件から 141 件に増え、前年比 10%増となった。特にインドネシアでは平成 21(2009)年以降、海賊事件が増加を続け、本年も、前年と略同数の、100 件

の事件が発生した。

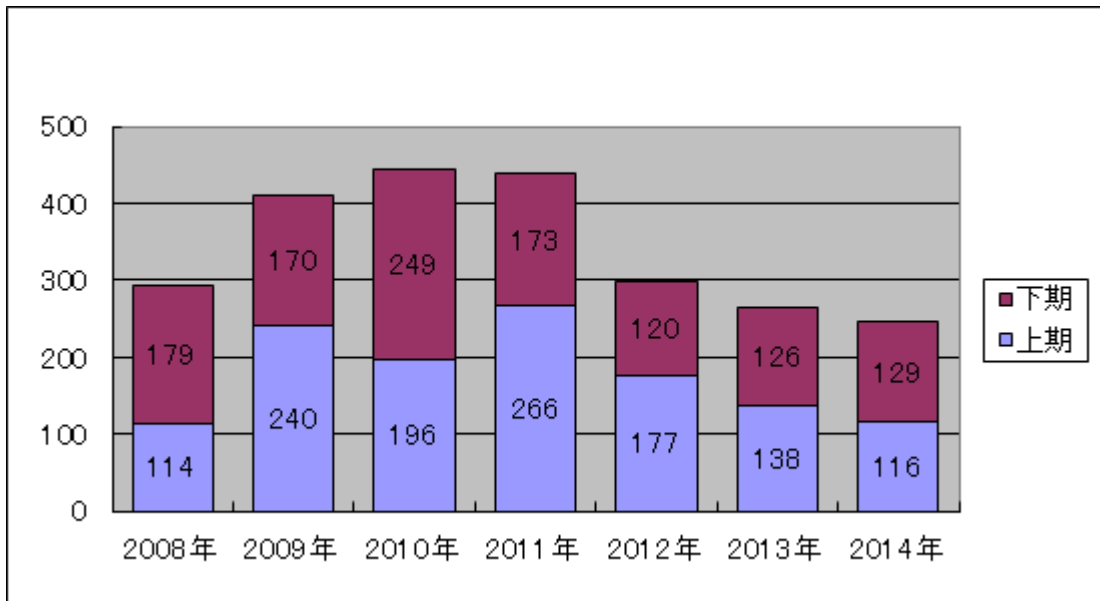
3. その他の地域

平成 25(2013)年に比べ、南米でも減少傾向となった。またバングラディッシュにおいては、同国沿岸警備隊による警備強化により、ここ数年大幅に減していたが、本年は前年より 9 件増加し、平成 22(2010)年以来の 20 件超えとなった。特にチッタゴン周辺での停泊時には注意が求められている。

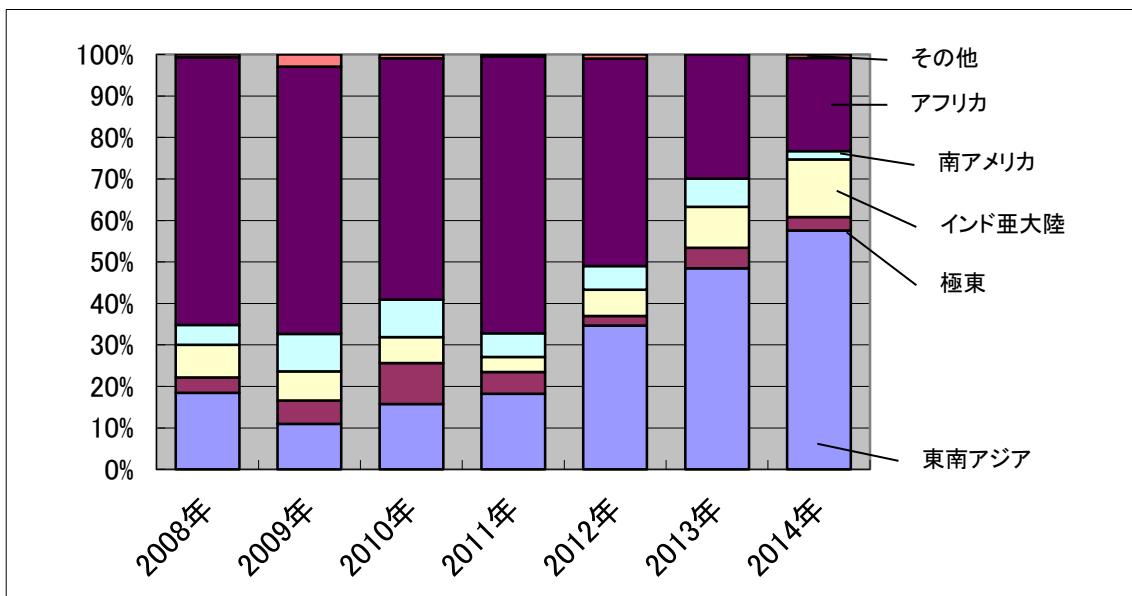
4. 主な事件の概要

- (1) 平成 26(2014)年 4 月 14 日 12:30 UTC 頃、アデン湾(12-25N, 043-43 E)で、7 人の海賊が携帯対戦車ロケットランチャー(RPG)を装備し、白い船体のスキフで、航行中の本船へ接近してきた。船長はアラームと汽笛を吹鳴し、放水を行い、加えて 2 発のパラシュートロケットを発射した。乗船していた武装ガードが、乗り込み用梯子が、スキフに積み込まれていることを視認したため、武器携帯を海賊に示したところ、海賊は襲撃を断念し、立ち去った。
- (2) 平成 26(2014)年 2 月 13 日 14:30 UTC 頃、ソマリア ブラバ沖 (01-07N,044-07E)で、AK47 ライフルで武装した 5 人の海賊が、白い船体のスキフで本船へ発砲しながら接近してきた。スキフが約 500m のところまで接近してきたため、本船の民間武装ガードが警告射撃を数発行ったが、海賊は応戦しながら、追跡を続けた。最終的に、海賊は本船の襲撃を諦め、陸側へ引き返していった。甲板上にあるコンテナに弾痕のダメージが認められた。
- (3) 平成 26(2014)年 12 月 30 日 13:00 UTC 頃、Zubair Island Group 西方(15-06N,42-00E)で、海賊 9 人が、2 隻のスキフに分乗し(3 人と 6 人)、航行中の本船を、追跡してきた。本船では、警報が発せられ、乗組員をシタデルへ避難させた。本船の武装警備員が警告として、発炎筒を発射した。スキフは本船への接近を続け、至近へ接近した際、武器と梯子が積み込まれていることが確認された。その後、本船の武装警備員が警告射撃を行ったが、海賊は追跡を続け、本船へ接近してきたため、再度警告射撃を行ったところ、スキフは追跡を諦めた。本船は航行を継続し、乗組員は全員無事。

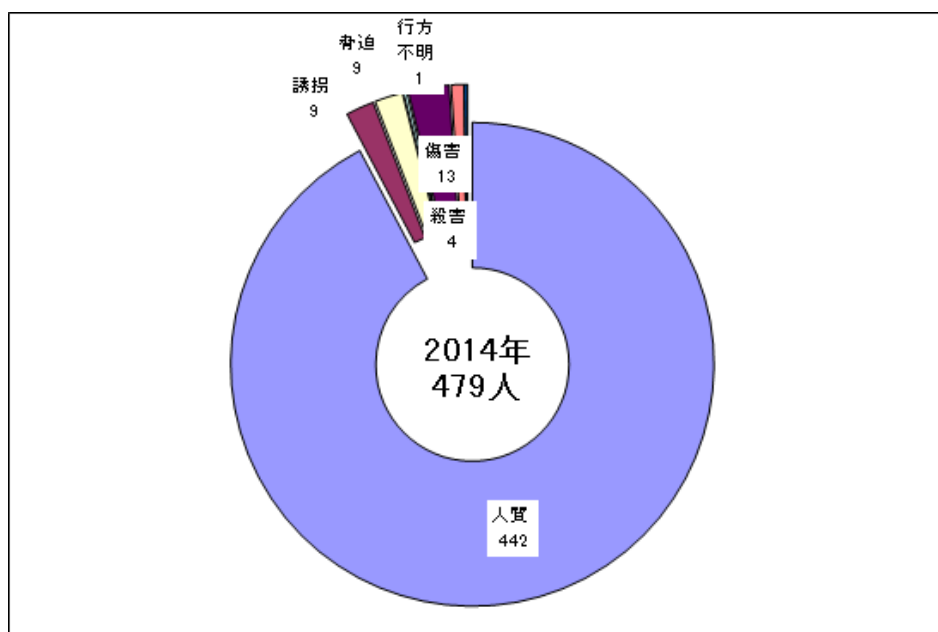
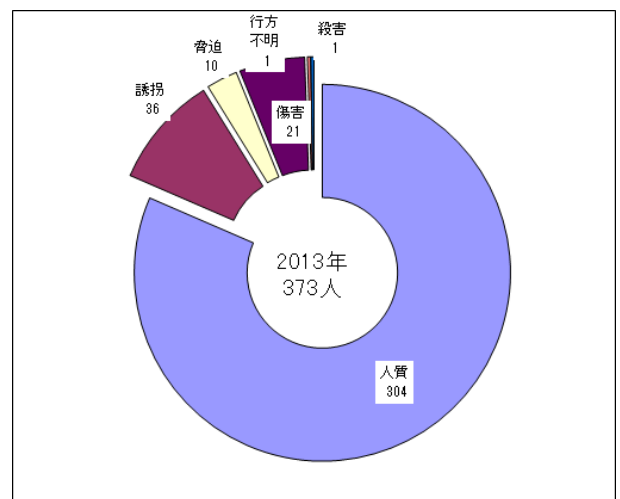
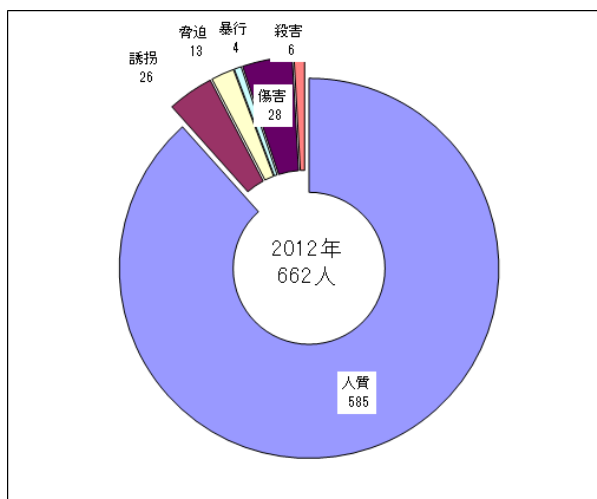
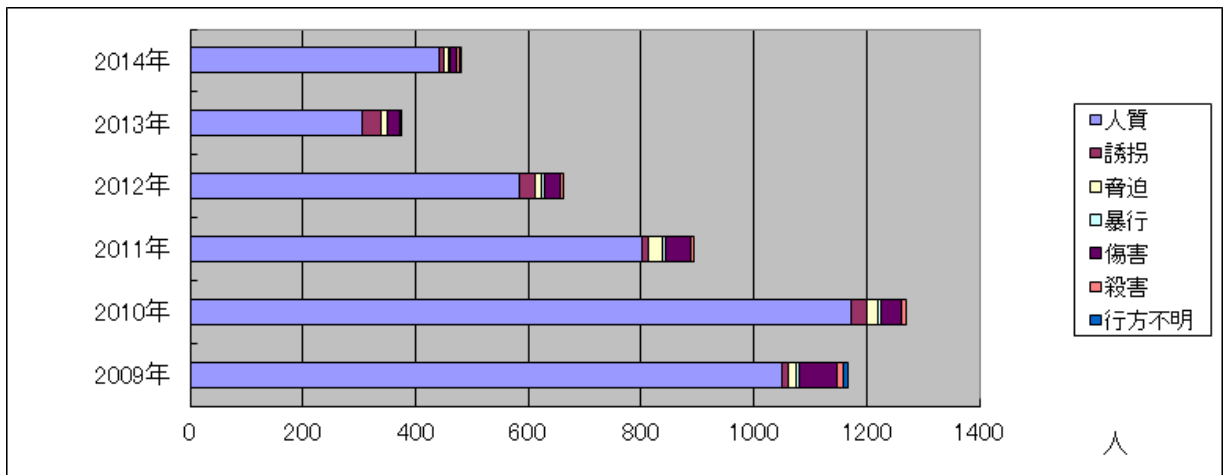
【資料 6-1-1-1】海賊事件発生件数の推移



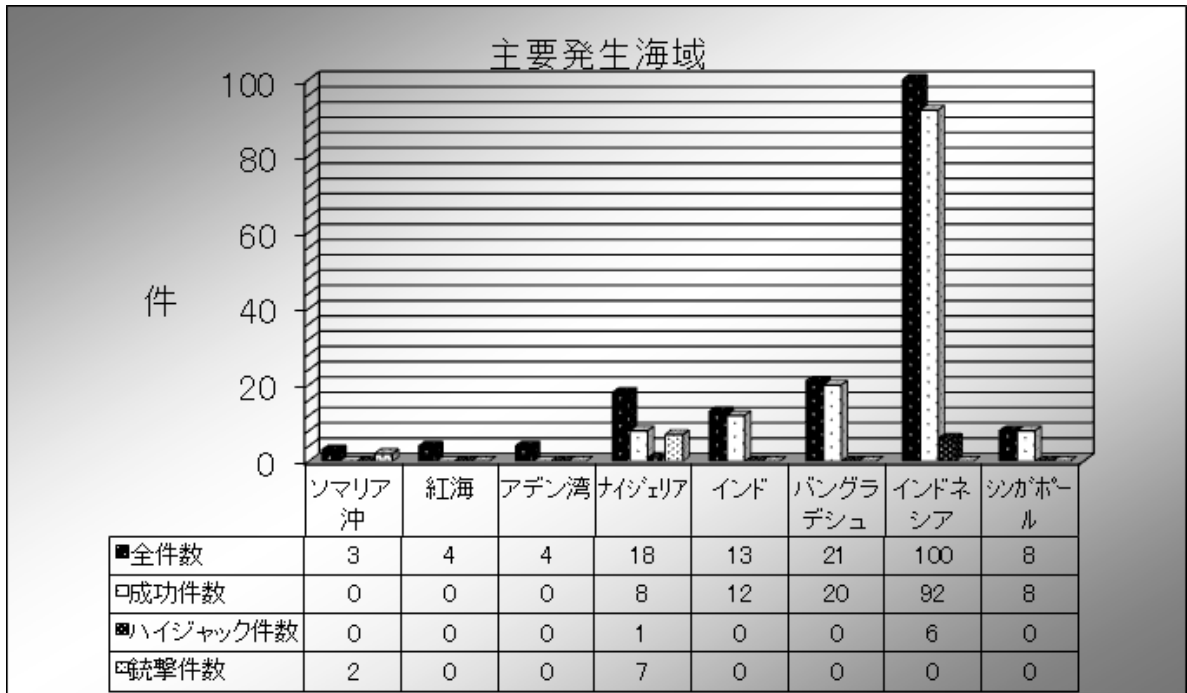
【参考】世界各地域の海賊発生件数の比較



【資料 6-1-1-2】乗客員・乗客の被害状況(過去3年比較)



【資料 6-1-1-3】主要発生海域



6・1・2 海賊の発生状況2. 当協会の活動とわが国の海賊対処活動

(1) アデン湾に於ける護衛活動実績

平成 25(2013)年度の海上自衛隊による護衛活動実績は、平成 26(2014)年 4 月 1 日～平成 27(2015)年 3 月 31 日の集計で、護衛回数 90 回、護衛船舶数は 260 隻(うち日本関係船舶 50 隻)となっている。

CTF151(ゾーンディフェンス)への活動日数は 283 日、確認した商船隻数は約 7,240 隻となっている。

また、護衛艦と共にアデン湾で哨戒を実施している P3-C 哨戒機の活動は平成 26(2014)年 4 月 1 日～平成 27(2015)年 3 月 31 日の集計で飛行回数 217 回、飛行時間 1,650 時間、確認した商船 18,800 隻、商船及び関係機関への情報提供 1,400 回となっている。

(2) アデン湾に於けるわが国の海賊対処活動に対する当協会の支援活動

アデン湾は世界的に重要な航路筋にあり、護衛活動は商船隊の航行安全維持と物資の安定輸送に欠くことのできない活動との認識から、当協会では護衛艦の出国と帰国行事へ参加し、感謝の意を表している。

【平成 26(2014)年度の護衛艦の出国及び帰国行事参加実績】

派遣海賊対処行動水上部隊出国行事への参加回数 3回(19～21次隊)
派遣海賊対処行動水上部隊帰国行事への参加回数 4回(17～20次隊)
派遣海賊対処行動派遣航空隊出国行事への参加回数 2回(16～17次隊)
派遣海賊対処行動派遣航空隊出国行事への参加回数 1回(17次隊)